

大分豊寿苑：ラダー表

レベル	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<b>レベルの定義</b>	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践できる	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最良の手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
<b>目標</b>	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえたニーズをとらえる
<b>ニーズをとらえる力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□高齢者の身体的特徴を理解し、ADLの低下に伴って起こりやすい認知症、褥瘡、骨折、栄養状態の低下、感染症についての視点から情報が得られる</li> <li>□観察した情報をもとに、ケアの必要性と医療的な緊急度を考える</li> <li>□介護施設看護に必要なアセスメントの考え方を理解する</li> <li>□疾患や障がいによる日常生活上の留意点を考える</li> <li>□ICFの視点で情報を得る</li> <li>□言動から認知機能の評価をする</li> <li>□本人・家族とコミュニケーションをとることができる</li> <li>□本人・家族の現状に対する認識を把握する</li> <li>□介護施設看護に関連する介護保険制度・医療保険制度の基本を理解する</li> <li>□入所者の社会面に関する情報を把握する</li> <li>□入所者・家族が大切にしているものを言動や表情から観察することができる</li> <li>□入所者のニーズを身体的、精神的、社会的スピリチュアル面の4つの側面から整理する</li> <li>□入所者のニーズのうち、最もケアに必要なニーズを考える</li> <li>□入所者の情報について、守秘義務の遵守、個人情報の遵守のもと取り扱う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ケアプランの内容を理解し、必要な情報の収集とアセスメントができる</li> <li>□入所者の状態の変化について多職種から情報収集する</li> <li>□現在の生活・過去の生活歴および住環境や生活習慣に目を向けた情報収集ができる</li> <li>□経過に応じた疾患や障がいによる日常生活行動の変化をあげる</li> <li>□生活における不自由さを把握する</li> <li>□療養生活における本人・家族の思いを聴きQOLに与える影響を考慮することができる</li> <li>□本人・家族と地域との関わりの状況を理解し、その変化についても情報収集することができる</li> <li>□利用可能な社会資源・サービスを考えることができる</li> <li>□入所者の言動や表情から、つらさや価値観について気づくことができる</li> <li>□入所者の価値観や信条の側面をアセスメントし共感の態度で接する</li> <li>□収集した情報を4つの側面から整理し、多職種から得られた情報と関連づけて課題を抽出できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□多職種からの情報と合わせ入所者の状態の変化を把握し、優先度の高いニーズをとらえる</li> <li>□入所者の自宅での過ごし方、介護者の介護方法、入所者・家族の持っている力を見つけることができる</li> <li>□生活の場におけるリスクを考慮することができる</li> <li>□情報収集することによる入所者・家族または入所者を取り巻く人々に与える負担の程度を考慮することができる</li> <li>□意図的なコミュニケーションにより精神面の課題を把握する</li> <li>□身体状況の変化に加え、地域との関わりや生活行動の変化に気づくことができる</li> <li>□施設の生活の場における人間関係を把握する</li> <li>□療養生活に対する入所者・家族の思いや希望を意図的に確認することができる</li> <li>□入所者の感情表出を促進するコミュニケーションの実践</li> <li>□退所後の生活も視野に入れ、収集した情報を整理し入所者の全体像を把握することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□多職種からの情報と合わせ入所者の状態の変化を把握し、優先度の高いニーズをとらえる</li> <li>□入所者の自宅での過ごし方、介護者の介護方法、入所者・家族の持っている力を見つけることができる</li> <li>□生活の場におけるリスクを考慮することができる</li> <li>□情報収集することによる入所者・家族または入所者を取り巻く人々に与える負担の程度を考慮することができる</li> <li>□意図的なコミュニケーションにより精神面の課題を把握する</li> <li>□疾患の予後や加齢による影響を予測的に考えて入所者のニーズをとらえることができる</li> <li>□入所者や家族の生活の中で起こりうる課題や症状の予測的判断ができる</li> <li>□人生の最終段階にある、または迎えようとしている入所者・家族に対して、今後起こりうる精神面の課題について予測することができる</li> <li>□入所者にとっての社会資源の過不足を考え、ケアプランへ反映することができる</li> <li>□入所者・家族の感情表出を促進するコミュニケーションが実施できる</li> <li>□意図的な情報収集により、複雑な状況にある入所者の潜在的・顕在的ニーズの抽出ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□複雑な状況において、状況や状態の優先度に応じてアセスメントを行い、解釈を説明できる</li> <li>□複雑な状態にある入所者の症状から、現在の状況判断及び予測的な状況判断を説明することができる</li> <li>□複雑な状況における疾患や障がいによる入所者の生活の中で起こり得る課題を予測することができる</li> <li>□社会面や精神面の課題が大きい入所者から、意図的なコミュニケーションによりニーズを把握することができる</li> <li>□複雑な状況において社会資源の過不足を考え、今後起こりうる社会面の課題を考慮することができる</li> <li>□価値観や信条の側面に関するニーズについて、多職種と情報共有し、専門家の介入の必要性を判断する</li> <li>□複雑な状況において解決すべき内容を明確化し、入所者・家族の価値観に応じたニーズを判断することができる</li> </ul>
<b>看護実践能力</b>	<b>目標</b> 助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践することができる	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
<b>ケアする力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□施設看護師の役割を理解し、生活の場におけるケアを指導を受けながら実践できる</li> <li>□基本的看護の技術が安全に実施できる</li> <li>□介護施設における事故が理解できる</li> <li>□災害発生時における自施設への対応方法を確認できる</li> <li>□暴言、暴力、ハラスメントに気づき報告できる</li> <li>□施設におけるスタンダードプロシージャを遵守できる</li> <li>□日常の健康管理と有症状時の対応ができる</li> <li>□医療廃棄物の取り扱いを理解し実施できる</li> <li>□問診や検査データ、バイタルサインの動向から入所者の病態を把握できる</li> <li>□よく扱う薬剤の基礎知識(作用と副作用)を理解したうえで薬剤投与時、中、後の観察を実施する。</li> <li>□BLSの技術を習得する</li> <li>□生命の危機的状況を発見した際の連絡体制を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□施設ケアサービス計画書に基づき必要なケアが実践できる</li> <li>□状況に応じて評価、修正することができる</li> <li>□ケアを安全に実施するための留意点を考慮し情報を入手する</li> <li>□入所者の状況に応じてケアの選択や実施ができる</li> <li>□行動心理症状のある入所者のペースに合わせケアが実施できる</li> <li>□転倒やヒヤリハット等の事例の把握、分析ができる</li> <li>□介護予防事故対策の介護職との情報共有ができる</li> <li>□災害発生時を想定した初期行動を実施する</li> <li>□入所者や実践の場における感染リスクをアセスメントし実践できる</li> <li>□感染対策等の家族への説明ができる</li> <li>□入所者の病態理解に基づいたアセスメントを実施する</li> <li>□薬剤の管理状況を理解する</li> <li>□配薬マニュアルの徹底により誤薬予防に努める</li> <li>□急変時の連絡体制を理解し、行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ケアプランに対するモニタリングができ、適切なケアの提案ができる</li> <li>□入所者の状況に応じて、適切なケアが実践できる</li> <li>□入所者の行動の背景にあるものを明らかにし、ケアに反映することができる</li> <li>□安全・安楽な療養環境を提供するためのリスクマネジメントができる</li> <li>□災害時の被害を最小限にできるよう、予防的行動がとれる</li> <li>□感染管理について関係職種と情報を共有し方針を統一できる</li> <li>□感染症発生時に、症状を悪化させないように迅速に対応できる</li> <li>□病状の変化や問題が生じた場合、臨機応変に対応できる</li> <li>□病態や症状に応じた薬剤の適切な管理ができる</li> <li>□呼吸、循環、意識の状態から急変を予測する</li> <li>□緊急時の対応について、連携するチーム間で確認し情報共有できる</li> <li>□リーダーシップを発揮し対応できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□予測的、予防的なケアを、あらゆる手段から選択し実践できる</li> <li>□入所者・家族の思いや理解度を考慮した対処方法・予防方法が実践できる</li> <li>□ケアに関わるトラブルに対して、発生の要因を分析し対応策を考慮することができる</li> <li>□災害時マニュアルを作成し定期的な訓練と確認ができる</li> <li>□拡大が予測される感染症発生時に、関係者が協働して対応できるような働きかけができる</li> <li>□入所者に提供されているケアを、病態生理と関連付けて考え、問題点や改善点を考えることができる</li> <li>□退所を想定し入所者・家族に対して自己管理への意図的な働きかけができる</li> <li>□緊急時における対応マニュアルを作成し、チーム員に指導できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□複雑な状況におけるケアの提供について、根拠に基づく自律的な評価をおこなうことができる</li> <li>□療養生活において自立に向けた可能性を広げるケアを提案・実施できる</li> <li>□ケアに関わるトラブルに対して関係者間の調整をして対処することができる</li> <li>□災害時マニュアルを適宜見直し、関係機関・関係職種との防災体制の調整ができる</li> <li>□感染症に適切に対処し、行政等関係機関に連絡して感染拡大を防止する。</li> <li>□病態の変化に応じて入所者に実施されている治療の効果をアセスメントし、治療方針について提案することができる</li> <li>□入所者の薬物の使用状況や副作用から、薬物の調整の必要性を提案することができる</li> <li>□複雑な状況における救命救急の対応について、チーム間で共有、確認することができる</li> </ul>
<b>協働する力</b>	<b>目標</b> ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる
<b>意思決定を支援する力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□施設の理念・活動目標を理解する</li> <li>□チームとしてケアをしていることを理解する</li> <li>□施設内における各職員の役割を把握することができる</li> <li>□カンファレンスに参加し情報を発信できる</li> <li>□日々の看護活動について、常に報告・相談ができる</li> <li>□コミュニケーションをとり、情報の共有ができる</li> <li>□関係機関とのコミュニケーションの方法を知る</li> <li>□医療保険、介護保険制度について把握する</li> <li>□地域にある保健・医療・福祉の資源を知ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□入所者の看護の方向性を理解し、他職種との情報交換ができる</li> <li>□状況に応じて必要な職種を考えて情報交換ができる</li> <li>□協働するメンバーへの伝達の仕方を工夫できる</li> <li>□コミュニケーションにおける自己の課題が理解できる</li> <li>□入所者の療養の場や役割を理解する</li> <li>□施設と地域における関係機関との連携方法を理解し、地域における役割を考慮することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□定期的および必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催し、入所者の個別性に合わせたケアの実践のために多職種と連携することができる</li> <li>□多職種それぞれの専門性を理解した上で、状況に応じてコンサルテーションできる</li> <li>□サービス担当者会議等に参加し、意図的に必要な情報を関係者と共有することができる</li> <li>□相手の意見の受け止め方を理解し、伝え方を工夫できる</li> <li>□入所者の療養の場や役割、希望を理解し、在宅での生活を支える地域のサービスについて対象や利用方法を理解する</li> <li>□地域連携における自身の役割が理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活の場において医療的な側面を理解してケアに活かしていく中心的役割を担う</li> <li>□入所者の課題を多角的にアセスメントし予測的・予防的な視点からも多職種のケアの向上を図ることができる</li> <li>□入所者の健康状態の変化をとらえ、主体的に多職種連携が機能するように調整する</li> <li>□カンファレンスや会議において、ファシリテーターをすることができる</li> <li>□退所時カンファレンスなど在宅支援職員とカンファレンスを実施し、連携することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□より複雑な状況において課題解決に向け各職種の役割を調整することができる</li> <li>□看護の質向上のため他施設とネットワークを構築することができる</li> <li>□複雑な状況におけるカンファレンスや会議のファシリテーターを務めることができる</li> <li>□地域の事業所とつながりを持ち、地域連携の方法等の提案ができる</li> </ul>
<b>組織的役割遂行</b>	<b>目標</b> 社会人・組織人としての自覚をもち行動する	専門職業人・組織人として、組織の中での役割を果たす	チーム全体の状況を捉えて行動する	所属部署で、専門的役割、または指導的役割を遂行する	所属を超えて、看護部や病院全体、地域社会から求められる役割を遂行する
<b>教育・研究</b>	<b>目標</b> 指導・助言を受けながら、自己の教育的課題に気付く	自己の教育的課題を見出す	自己の教育的課題達成に向けた教育活動を展開する	自己の教育活動に積極的に取り組むとともに、指導的な役割を実践する	専門領域や高度な看護技術などについて、自己教育活動を展開する
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□組織内の研修に参加し看護の知識を深めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□外部の研修や学会に自主的に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□問題意識をもち、学会等に参加できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□看護研究に取り組み学会等で発表できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□スタッフへの研究活動の指導ができる</li> </ul>